

# 「地方創生カレッジ in 高浜町」 ワークショップ等の成果のポイント

## 1. 地域課題・テーマ

テーマ:「関係人口が紡ぐ新しい地域づくり」

## 2. 現状と問題点

- ・デジタル技術の発展やクラウドサービスの活用によって、新たな働き方を選択できるようになり、ひとやしごとの流れが変化している。また、新型コロナウイルスの感染拡大の影響でリモートワークは急速に普及し、地方ではワーケーションや二拠点居住などの新たな働き方を交流や学び、地域貢献を通して新たな価値創造への関心が高まっており、これらを推進する地方自治体も増加傾向にある。
- ・実施地である福井県高浜町をはじめ、多くの地方公共団体では、若者やまちなかの人口が減少し、地域コミュニティの希薄化や活力の低下が進行している。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大は、地域経済活動を大きく制限し、地域での 交流機会の減少やコミュニティの希薄化を生み、複雑化、多様化する地域課題を深刻化させている。

## 3. 目指すべき方向性・将来像と実現に向けた具体的施策

- ・デジタル技術を活用し、交流人口や関係人口による地域コミュニティの維持・発展を図る。
- ・テレワーカー等の新たな働き手やふるさと納税などによって期待される交流人口・関係人口の視点を踏まえ、地域のデザイン(滞在し続けたいと思える魅力ある地域を目指すための環境整備や交流の機会)を考える。
- ・人口減少による人材不足が全国的に続く中で、地域外と地域内の人との新しいコミュニティの形成によるイノベーションの機会を創出し、越境型の課題解決につなげることを目指す。
- ・DXの推進やデジタル社会における働き方や講師が地域で実践する取組の共有を通して、地方創生テレワークを波及を目指す。

# 「地方創生カレッジ in 高浜町」 ワークショップ等の成果のポイント

## 4. 今回のワークショップやディスカッションを通じて得た気づき(官民連携、人材交流の効果等)

### ①高浜町とオンライン受講者との新たなつながりを構築し、関係人口づくりの機会の創出

受講者は、2日間の講義や事例紹介、フィールドワークを通して、高浜町の魅力や地域資源、課題を学んだ。

これらの講義等に加え、地域外のオンライン受講者が高浜町在住者を中心とした現地受講者と実施したグループワークは、地域課題解決のための「越境型」の価値創造を目的とした内容であり、デジタル社会における新たな関係人口づくりの機会となった。

受講者からは「自分の地域に置き換えて実践していくヒントになったと同時に、高浜町にこれから関わっていくきっかけもできた」といった声も聞かれ、地域外の受講者が高浜町の今後の地域づくりに関わる機会をつくり、高浜町の交流人口・関係人口創出につながった。

### ②交流人口・関係人口が地域の多様化・複雑化する地域課題を解決のための鍵となることの確認

受講者は、2日間の講義やグループワークを通して、地域の枠を超えた課題解決による、イノベーション(価値創造)の創出が重要であると学んだ。

具体的には、箕浦氏から地域課題が多様化されている現代社会において、従来の組織の枠では課題解決が困難になってきており、今後は組織の枠を超えた様々な主体と協働で解決を図る必要があると紹介された。また、浅野氏からは、自身が実践している地域課題解決型ワーケーションで、県外のインターン生や学生起業家、大学生が高浜町の地域課題を地域資源として活用し、課題解決に取り組んでいる事例が紹介された。

2日目のグループワークでは受講者が高浜町の地域課題解決のための意見交換を行い、提案書の作成と発表を実施した。発表後の講評では、講師が提案書の内容を精査し、実現に向けて協議していくことになり、具体的な課題解決に向けた動きにつながったことから、デジタル社会における関係人口の捉え方の認識が変化した。

### ③地方創生テレワークの波及

受講者は、DXの推進やデジタル社会において、場所や時間に制限されない働き方の広がりを学んだ。

具体的には、ICT技術を前提とした社会生活様式や行動様式、業務フローの変革が必要であることや、都市圏の企業に在籍しながら地方のビジネスに関われるパラレルキャリア、専門人材のシェア等の多様な働き方、DXを前提とした新たな価値創造や交流のデザインなど新たな価値観を学ぶことができた。また、そのためテレワークの受入側も、「既存の地域コミュニティを維持しつつ、地域外の『人』や『企業』との関係性をつくり、『定住』や『企業進出』を伴わない新しいコミュニティの形」の構築など地域外の視点が重要であると学ぶことができた。

2日目のグループワークでは、実際に地域内外の受講者が課題解決を図ることで、受講者のテレワークを活用した地域づくりの実践的手法を学んだ。

### ④現地とオンラインによるハイブリッド型研修による遠隔交流

今回、新型コロナウイルス感染症の拡大化し、全国的にまん延防止等重点措置が発出される中で現地とオンラインを合わせて定員を上回る65名の参加申込があった。

「地域づくり」は年齢や職業を問わず、その地域に住む「人」が集まり、主体的に地域に向き合って課題解決に取り組むことで実現可能となる。本講座では、高浜町や近隣地域の参加者だけではなく、様々な地域や属性の方に参加いただいたことで、地域外の視点や遠隔交流が生まれた。また、オンライン受講者は本講座で学んだ地域内外の視点を各地域で実践する波及効果も期待できるため、地方創生を担う人材の育成が図れた。

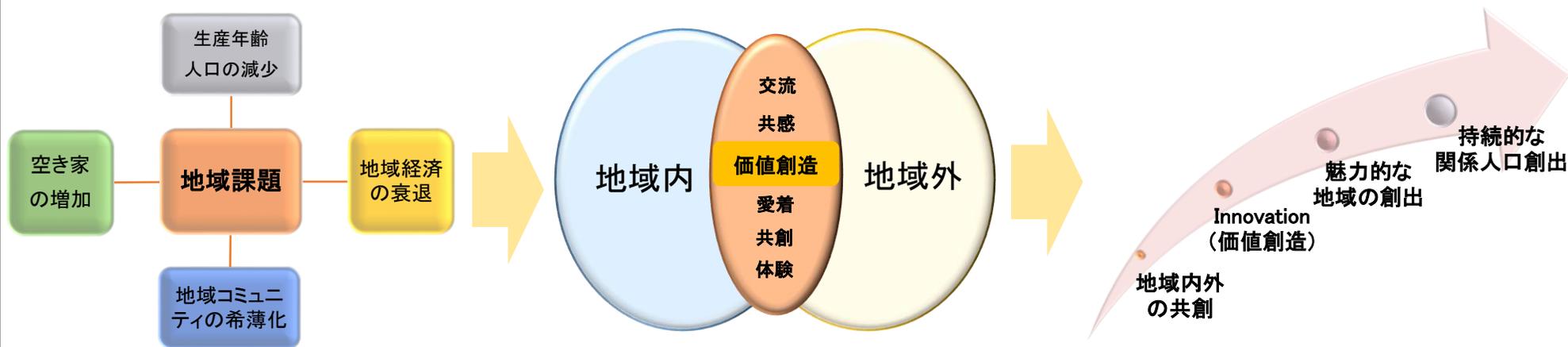
# 「地方創生カレッジ in 高浜町」 ワークショップ等の成果のポイント

## 5. 成果スキーム図

### 【現状・地域課題】

- ・デジタル技術の発展やクラウドサービスの活用によって、新たな働き方を選択できるようになり、ひとやしごとの流れが変化している。また、新型コロナウイルスの感染拡大の影響でリモートワークは急速に普及し、地方ではワーケーションや二拠点居住などの新たな働き方を交流や学び、地域貢献を通して新たな価値創造への関心が高まっており、これらを推進する地方自治体も増加傾向にある。
- ・特に、実施地である福井県高浜町をはじめ、多くの地方公共団体では、若者やまちなかの人口が減少し、地域コミュニティの希薄化や活力の低下が進行している。また、新型コロナウイルスの感染拡大は、地域経済活動を大きく制限し、地域での交流機会の減少やコミュニティの希薄化を生み、複雑化、多様化する地域課題を深刻化させている。

### 【官民連携講座による効果】



### 【全体の成果】

高浜町の課題解決を通じて、受講者は地域内外の視点を踏まえた解決手法を水平展開で学ぶとともに、デジタル社会における地域デザインなどの越境型の価値創造といった多角的な視点を知ることができた。また、受講者間の対話やふれあいを通じて新たなつながりが生まれ、高浜町と町外受講者相互の関係人口づくりに寄与した。